

製品名: エズリン (リン酸化 Thr566) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04649**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	69kDa

抗原情報

遺伝子名	EZR
別名	EZR; VIL2; Ezrin; Cytovillin; Villin-2; p81
遺伝子 ID	7430.0
SwissProt ID	P15311
免疫原	抗血清は、Thr566 のリン酸化部位周辺のヒトエズリン由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 534-583

背景

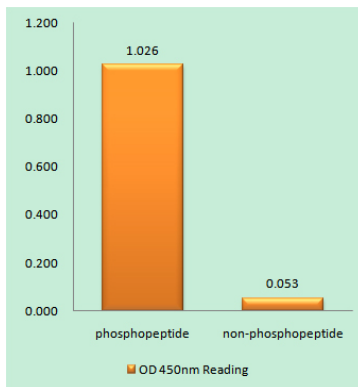
この遺伝子によってコードされる細胞質表層膜タンパク質は、微絨毛においてタンパク質チロシンキナーゼの基質として機能す

る。ERM タンパク質ファミリーの一員として、このタンパク質は細胞膜とアクチン細胞骨格の中間体として機能する。このタンパク質は細胞表面構造の接着、遊走、組織化において重要な役割を果たしており、様々なヒト癌への関与が示唆されている。この遺伝子については、3番染色体上に位置する偽遺伝子が同定されている。また、この遺伝子の選択的スプライシングバリエーションも報告されている。[RefSeq 提供、2008年7月]、発達段階: 乳児脳では、成人脳と比較して、プルキンエ細胞層および分子層の一部に非常に強い染色が検出される。機能: 主要な細胞骨格構造と細胞膜の接続に関与していると考えられる。上皮細胞では、微絨毛および頂端極の膜波状構造の形成に必要である。PLEKHG6とともに、正常なマクロピノサイトーシスに必要である。PTM: チロシンタンパク質キナーゼによってリン酸化される。類似性: 1つのFERMドメインを含む。細胞内局在: 壁細胞の頂端膜への局在は、MPP5との相互作用に依存する。アストロサイトの細胞伸展部および末梢突起に局在する(類似性による)。微絨毛末梢膜タンパク質(細胞質側)。サブユニット: MPP5と相互作用する(類似性による)。SLC9A3R1 および SCYL3/PACE1 と相互作用する。PLEKHG6 と相互作用する。NGX6 と相互作用する。組織特異性: 大脳皮質、基底核、海馬、下垂体、および視神経で発現する。脳幹および間脳で弱い発現を示す。前頭葉の白質と比較して灰白質でより強い発現が検出された(タンパク質レベル)。腸管上皮細胞の微絨毛の構成要素。海馬、前頭皮質、視床、海馬傍回皮質、扁桃核、島皮質、脳梁のアストロサイトに優先的に発現する。研究対象となったほとんどの組織のニューロンでは検出されなかった。

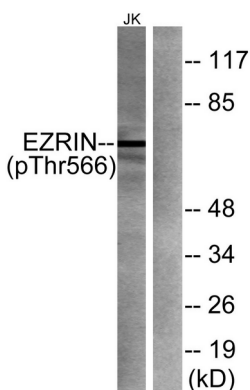
研究分野

白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節、病原性大腸菌感染

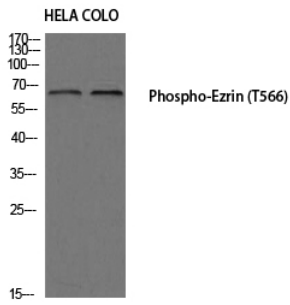
画像データ



エズリン(リン酸化Thr566)抗体を用いたリン酸化ペプチド(リン酸化左)および非リン酸化ペプチド(リン酸化右)免疫原の酵素結合免疫吸着測定法(リン酸化ELISA)



PMA 125 ng/ml 30μl 処理した Jurkat 細胞ライセートの Ezrin (リン酸化 Thr566) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホエズリン (T566) 抗体を用いた HELA COLO のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。